

タンチョウ博士のお話（第6回）

今回は「タンチョウの子育て（巣や卵の大きさ、色など）」についての質問です。質問は、〔中小〕小林颯太さん・鈴木愛華さん・高橋明翔さん・東山湘瑛さん、〔長高〕鹿内桃花さんなど20名の方からいただきました。

○カスタードプリン形の形の巣と、たまご4個ぶんのたまご？！

もう8月。今年生まれたタンチョウの子は、体もだいぶ大きくなってきた。今月の終わりころ、つまり生まれて100日ほどで、大人と同じくらいの大きさになり飛べるようになる。

さて、前に生まれた後のことに少し触れたので、今日は生まれる前のことをお知らせしよう。

ぼくは、あたりまえだけど、生まれる前は卵だった。で、その卵はどこにあったと思う？木の上？家の屋根の上？それとも岩の上？でなきゃ草の上？そう、草の上、つまり地面の上だ。それも、湿った場所（湿地）に生えているヨシや、スゲなどの草の上に作られた巣のなかだ。

もちろん、巣を作るのは、パパとママ。巣作りは4月なかばころだから、新しい草はまだ伸びていない。前の年の枯れ草ばかりだ。そこで枯れたヨシの根元近くをくちばしで折り、取ったヨシを1か所に集める。すると、下が160cmで上が90cmほどのまるい台形、つまり、お皿に乗せた平べったいカスタードプリンに似たかたちの巣ができる（写真①）。

さいしょの卵を産んでから、1日か2日あいだを置いて、ママは二つめの卵を産む。これでおしまい！

つまり、1年にたった二つの卵しか産まないんだ。

では、クイズだよ。ぼくが卵だったときの大きさ（長さ）は、ニワトリの卵とくらべて ①同じ、②小さい、③2倍大きい、④4倍大きい、のどれかな？（答えはこのページ下にあるよ）（写真②）。

卵の重さは約240グラム。ニワトリの卵の約4個ぶんあるけど、抱かれている間にしだいに重さが減り、誕生前は200グラムほどになる。

卵は薄いベージュ色の地に、茶や紫がかった斑点があるのがふつうだけど、なかには、ニワトリと同じまっ白な卵を産むママさんもある。この卵をパパとママが、毎日昼も夜も、交代で約ひと月（へいきん32日）抱いてあたため、ぼくが生まれたのさ。

ニワトリは、セキショクヤケイという野生の鳥を飼いならしたのだけれど、野生の鳥の卵は白いよ。ところが、白い卵を産むニワトリのほかに、ヒトが交配を繰り返すなどして茶色の卵を産む品種が創られた。逆に、ぼくたちの白い卵は、あるとき突然変異が起きて色が消え、それが遺伝しているのだろう。だけど、白と茶の卵で、ぼくたちの暮らしに違いがあるかなどは、何もわかっていないらしい。

（文・写真：正富宏之）



写真①湿地のヨシ原に作られたタンチョウの巣



写真②タンチョウの卵（上）とニワトリの茶色の卵（下）（Sサイズ）

③答え、卵の長さ10.5cm、大きさ9.5cm